

小・中学校における栄養教諭の認知と 大学における栄養教諭履修との関係

山王丸靖子，島村幸代，秋山 隆

要 旨

城西大学医療栄養学科の2020年度新入学生を対象として、栄養教諭の認知率、小学校・中学校における栄養教諭からの食に関する指導を受けた経験等についてWebアンケートを実施した。その結果、「栄養教諭」の名称を知らない者が全回答者87人のうち19人（21.8%）、城西大学で栄養教諭資格が取得できることを知らなかった者は43人（49.4%）であった。なお、小学校・中学校において栄養教諭が在籍しており、食に関する指導を受けた経験は両者ともに約20%程度であった。

このように、管理栄養士養成課程に入学する学生においてさえ、栄養教諭の認知率は低いことが明らかになった。今後は、学校教育の中において、栄養教諭の認知を高めるための取り組みについて検討することが必要である。それと同時に、栄養教諭養成校としては、自ら希望して栄養教諭資格を取得する学生を育成するために、入学時ガイダンス等における情報発信を積極的に行う必要がある。

キーワード：栄養教諭，栄養教諭履修

1. はじめに

令和元年度における全国の管理栄養士養成施設（大学・専門学校）149施設のうち、栄養教諭1種の免許資格を取得できる大学は136校である。しかし、その136校に入学した学生全員が栄養教諭免許の取得を希望するわけではない。入学定員100人の当大学においても、取得希望者は例年1割前後にとどまっている（2018 山王丸）。食育の中核として活躍できる栄養教諭を養成するためには、資格取得を自ら希望する熱意ある学生の存在が必須である。

これまでに、我々は栄養教諭免許の取得を希望する学生を対象として、その理由を複数回答により調査した。その結果、理由として最も多かった

のは「管理栄養士以外の資格が取得したい」であり全体の84.6%を占めた。なお、「栄養教諭にあこがれていた」と回答したものは皆無であった（2018 山王丸）。このことは残念ながら栄養教諭が、学生たちのロールモデルとして機能していない現状を示唆している。

栄養教諭制度は、平成17年4月より開始してから15年が経過している。その間に、全国に配置されている栄養教諭数は、自治体により違いがあるもの6488人（令和元年5月時点）まで漸増している。そのことから、小学生、中学生における栄養教諭の認知度は、徐々に高まっているのではないかと考えられる。

そこで、本調査では、管理栄養士養成課程に入学直後の学生を対象として、小学校、中学校時代

における栄養教諭の認知の実態を探ることとした。また、大学入学後に栄養教諭資格の取得を希望する学生と、栄養教諭の認知との関連について検討を試みた。これらの結果から、栄養教諭養成校としての今後の取り組みに必要な資料を得ることとした。

2. 方法

2.1 対象者

2020年度城西大学薬学部医療栄養学科に入学した95名を対象とした。Webアンケートを無記名式で実施した。回答率は87人（91.6%）であった。未回答項目について項目ごとに除外し集計を行った。回答者の性別は男性27名、女性59名、無回答1名であった。平均年齢は18.6歳（回答者84名）であった。

2.2 調査内容

対象者の属性（性別、年齢）栄養教諭に対する認知、小学校・中学校における栄養教諭の在籍と、食に関する指導を受けた経験、大学における栄養教諭履修希望の有無など合計20項目について

調査した。

2.3 倫理的配慮

本研究は、倫理面および個人情報への配慮を盛り込んだ研究計画書を作成し、城西大学生命科学倫理審査委員会の承認を得て実施した（人医倫-2020-01A）。調理学実習Aの授業最終日に、調査の趣旨を説明しWebアンケートを実施した。対象者には調査の目的を説明すると共に、回答は無記名式で個人は特定されない事および任意である事を口頭で説明した。また、回答しなくても単位の取得および成績には影響しない事も口頭で説明した。これらに関する説明文書は、Webクラスで公開した。

アンケートの回答をもって同意を得たものとみなし、その旨は口頭および文書で説明した。

3. 結果および考察

3.1 大学入学前における栄養教諭の認知度

表1は城西大学入学前の「栄養教諭」の認知について示している。

栄養教諭資格については、大学入学直後のガイ

表1 栄養教諭の認知について

| 質問 | 選択肢 | 人数 | (%) |
|----------------------------------|----------------|----|--------|
| 「栄養教諭」の名称を聞いたことがあるか（87人） | 聞いたことがある | 68 | (78.2) |
| | 聞いたことがない・わからない | 19 | (21.8) |
| 栄養教諭の仕事内容を知っていたか。（68人）* | 良く知っていた | 5 | (5.7) |
| | まあ知っていた | 38 | (55.9) |
| | あまり知らなかった | 24 | (27.6) |
| 城西大学で栄養教諭資格を取得できることを知っていたか。（87人） | 知っていた | 44 | (50.6) |
| | 知らなかった | 43 | (49.4) |

*「栄養教諭」の名称を聞いたことがあると回答した68人を対象とした。

表2 小・中学校における栄養教諭の在籍状況について

| 質問 | 選択肢 | 人数 | (%) |
|-------------------------------------|--------------|----|--------|
| 小学校に栄養教諭は在籍していたか (67人) * | 在籍していた | 23 | (33.8) |
| | 在籍していなかった | 11 | (16.2) |
| | わからない・覚えていない | 34 | (50.0) |
| 小学校で栄養教諭から食に関する指導を受けたことがあるか (23人) § | 受けたことがある | 19 | (82.6) |
| | 受けたことがない | 1 | (4.3) |
| | わからない・覚えていない | 3 | (13.0) |
| 中学校に栄養教諭は在籍していたか (67人) * | 在籍していた | 23 | (33.8) |
| | 在籍していなかった | 22 | (32.4) |
| | わからない・覚えていない | 23 | (33.8) |
| 中学校で栄養教諭から食に関する指導を受けたことがあるか (23人) § | 受けたことがある | 18 | (78.3) |
| | 受けたことがない | 3 | (13.0) |
| | わからない・覚えていない | 2 | (8.7) |

* 「栄養教諭」の名称を聞いたことがあると回答した67人を対象とした。

§ 小学校・中学校において栄養教諭が在籍していたと回答した者を対象とした。

ダンスで履修についての説明が行われる。その際には、栄養教諭の資格や業務などについて説明するため、栄養教諭について知らなかった対象者も、その時点で既知となる。

そのことから本調査における、「栄養教諭」の名称を知っていたか、栄養教諭の仕事内容を知っていたか、城西大学で栄養教諭資格を取得できることを知っていたか、の3つの質問では、「城西大学に入学する前（高校生の時）」を思い出して答えてください。」と明記してから回答を促した。

回答の結果、「栄養教諭」という名称（名前）について聞いたことがありますか。という質問では、全体の68人（78%）が聞いたことがあると回答した。しかし、約20%の対象者が聞いたことがないと回答した。この結果は、「栄養教諭」の認知が若い世代に行き渡っていないことを示している。本調査の対象者は、管理栄養士養成課程の学生であり、その他の学部の学生と比較して、食や栄養に対する興味が強いと考えられる。そのことから、一般的には「栄養教諭」の認知はさらに低

いことが推測された。

次に「栄養教諭」の名称を聞いたことがあると回答した68人を対象として、栄養教諭の仕事内容を質問した。「良く知っている・まあ知っている」と回答した者の合計は43人（61.6%）であった。「栄養教諭」の名称を聞いたことがある者は、仕事内容を知っていると考えられるが、本調査では仕事内容を限定していないため、食に関する指導を受けたのか、給食配膳等の場面を思い出したのかは不明である。

また、全対象者のうち約半数は入学するまで、城西大学で栄養教諭の資格を取得できることを知らなかった。医療栄養学科の入学案内には、栄養教諭資格についての記載はあるものの、栄養教諭を知らない、あるいは関心がない者はそれらには注意を払っていないと考えられた。この結果は、栄養教諭の名称を知らない者が全体の約20%存在することと関連している。

3.2 小・中学校における栄養教諭の在籍状況

「栄養教諭」の名称を聞いたことがあると回答した68人を対象として、自身が卒業した小学校、中学校における栄養教諭の存在の有無について質問を行った。

これらの質問では、「あなたが卒業した小学校・中学校のことを思い出して答えてください。」と記載し、当時のことを思い出して回答してもらった。小学校、中学校ともに栄養教諭が在籍していたと回答した対象者は23人（33.8%）であった。栄養教諭が在籍したと回答した者について、「栄養教諭から食に関する指導を受けたか」との質問を行った。その結果、小学校、中学校ともに「受けた」と回答した者は約80%であった。この結果は、栄養教諭が在籍している場合には、食に関する指導が実施されていたことを示している。

これまでに小林が、大学生を対象として学期の食に関する授業経験について報告している（2018 小林）。その中で、「小学校の時に栄養教諭（栄養士）による食や栄養に関する授業経験」があったと回答した者の割合は、全体の47.6%であったと述べている。本調査では、全対象者87人に対し、小学校で栄養教諭から食に関する指導を受けたことがあると回答した者は19人で、これは全体の21.8%である。この割合は小林の報告よりもかなり低い。このような違いが生じた原因は、質問の文言によるものではないかと推測された。小林は「栄養教諭（栄養士）による指導」と質問していることから、対象者は栄養教諭と栄養職員

を混同して回答したのではないかと推測される。学校栄養職員（栄養士）が給食指導などの、食に関する指導を行った場合に、両者の判別は小学生には困難であったと考えられる。我々の結果でも、小学校における栄養教諭の在籍状況を「わからない・覚えていない」と回答した割合が約半数を占めた。小学校時代に食に関する指導を受けていたとしても、対象者がその職位を認識していたかは不明である。

栄養教諭の配置率は、自治体により違いがあるものの、多くは小学校のほうが中学校よりも高い（2018 埼玉県教育委員会）。そのため、小学校における栄養教諭の認知率は中学校よりも多いことが期待されたが、両者の割合は同程度であった。しかし、中学校における栄養教諭の在籍について、「わからない・覚えていない」との回答割合は小学校の認知割合よりも減少していた。この結果は、栄養教諭に対する認知が、成長につれて明確になっていくことを示している。

現状では、食に関する指導は栄養教諭のほか、担任教員や家庭科教員等から受ける場合もある（2017 新保）。そのため、学校教育の中で、児童・生徒に栄養教諭の認知を高めるためには、栄養教諭としての存在を強調しなければならないと考えられた。特に小学生に対して、食に関する指導を行う際には、栄養教諭の名札をつける、栄養教諭と繰り返して名乗るなどの取り組みが必要ではないかと考えられた。

表3 城西大学において栄養教諭の資格取得の希望について

| 質問 | 希望の有無 | 人数 (%) | |
|-----------------|-------|-------------------|-------------------|
| | | 「栄養教諭」を聞いたことがあるか | |
| | | 聞いたことがある (68人) | 聞いたことはない (19人) |
| 栄養教諭の資格取得を希望するか | 希望する | 5 (7.4) | 3 (15.8) |
| | 希望しない | 63 (92.6) | 16 (84.2) |

表4 栄養教諭資格を取得する理由（8人*）

| | |
|----------------|---|
| 管理栄養士以外の資格が欲しい | 4 |
| 教師という職業に就きたい | 2 |
| 人に教えたい | 2 |
| 子供が好き | 0 |
| 栄養教諭にあこがれていた | 0 |

*栄養教諭資格を取得すると回答した8人を対象とした。

3.3 大学における栄養教諭資格の取得

表3には、全対象者における栄養教諭の資格取得希望の有無について示した。表4には資格取得を希望する者を対象として、その理由について質問した結果を示している。

「栄養教諭」の名称を聞いたことがあると回答した68人のうち5人、聞いたことがないと回答した19人のうち3名が履修すると回答した。なお、前者の5名は城西大学で栄養教諭資格を取得できることを知っていたと回答している。履修希望者のうち3人は、「栄養教諭」を聞いたことがなく、大学に入学まで履修の可否も知らなかったものの履修を希望している。

履修を希望する理由として、最も多かったのは管理栄養士以外の資格が欲しいであった。この結果はこれまでの調査（2018, 2020 山王丸）と同様の理由である。管理栄養士資格の取得を目的として入学する学生においては、資格取得に対する意識が他の学部学生と比較して高いことが想定される。それに加えて、昨今の社会経済状況から、学生の資格志向の高まりが推測される。そのため、栄養教諭について、入学時の学生に十分周知し、資格の取得が将来の仕事選択の幅を広げるなどの説明をすることで、履修者の増加につながるのではないかと考えられた。

4. まとめ

本調査では、管理栄養士養成課程入学時の学生を対象として、小学校、中学校時代の栄養教諭の認知と、大学における栄養教諭資格取得の実態について調査を行った。

その結果、全対象者のうち約20%が「栄養教諭」の名称を知らず、全体の半数が入学するまで城西大学において栄養教諭の資格取得ができることを知らなかった。栄養教諭という名称を知っている者でも、小学校では約半数、中学校においても約30%が栄養教諭の在籍について「わからない・覚えていない」と回答した。このように、小学校、中学校における栄養教諭の認知率は低いことが明らかになった。

わが国における生活習慣病の現状は、高齢化に伴い増加を続けている（2017 厚生労働省）。生活習慣病の予防には食生活が大きく関わっており、食習慣を適正に保つことは、健康の維持・増進に大きく貢献する。学童期に栄養教諭による授業を受けた経験が、青年期の食習慣を良好にし、それが生活習慣病の発症予防に役立つ可能性がある（小林 2018）。

平成31年3月に、「食に関する指導の手引き（第二次改訂版）」が文部科学省より公表され、栄養教諭が食育の推進に果たす役割が期待されている。栄養教諭による食に関する指導は、早期から必要であり、栄養教諭の全校必置が強く望まれる。

栄養教諭の認知率を高めるためには、学校教育の中で栄養教諭の認知と存在意義を高める取り組みが必要である。また、栄養教諭養成校としては、栄養教諭を単なる資格の一つとしてとらえるのではなく、自ら栄養教諭を希望する学生を育成するために、入学時の学生を対象として、栄養教諭の必要性、重要性、やりがい伝えていかねばならない。

【参考文献】

- 厚生労働省（2017）平成29年 患者調査（傷病分類編）。
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/10syoubyo/>（令和2年9月）
- 小林道（2018）学童期に栄養教諭による授業を受けた経験が青年期の食習慣に与える影響。日本栄養士会雑誌 61, 33-38.
- 埼玉県教育委員会（2018）埼玉県の学校給食。
<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2211/documents/r1saitama-no-gakkoukyuushoku.pdf>（令和2年9月）
- 山王丸靖子・秋山隆・並木英己子（2018）栄養教諭を目指す学生の意識調査。城西大学教職課程センター紀要, 2, 41-49.
- 山王丸靖子・島村幸代・並木英己子・秋山隆（2020）栄養教育実習に関する実態調査－栄養教諭を目指して－。城西大学教職課程センター紀要, 4, 57-63.
- 新保みさ・福岡景奈・赤松利恵（2017）小学校における学級担任による給食指導。日健教誌 25, 12-20.